
雪の華 ~ 2 0 0 4 ~

広瀬亜紀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雪の華〜2004〜

【Nコード】

N0212A

【作者名】

広瀬亜紀

【あらすじ】

バレンタイン前日、新一と蘭の甘い思い出（笑）

2月13日 バレンタイン前日。

「わーっ雪！見て、新一！・・・新一？」

初雪。蘭は嬉しそうに声をかける。だが新一の姿はない。

「もー・・・どこいったのよ？」

蘭は新一をさがす。

「あっ」蘭の声と同時に新一が振り向く。

「どうした？」

「どうした？じゃないわよ。さがしたんだから」

蘭は少し焦っていた。なぜなら明日はバレンタインデー。でもその当日、新一はいない。また事件だ。

「それで？」新一が尋ねてきた。

「えっ・・・あ、その・・・渡したいものがあるの」

「何？」

緊張、そして沈黙。

「明日、新一いないでしょ？だから・・・これ」

手が震えながらも新一にチョコを渡した。

「サンキュー」

新一は照れながらも礼を言った。

2人ともなんだかぎこちなくて、その場に立っていた。

「手作り？」新一が尋ねた。

「そうよ」

「じゃあ俺、本命？」

「バカ、ちがうわよ」キツパリ否定。

またのがした、告白のチャンス。自分がバカだと蘭は思った。

「外いかない？」新一が言った。

「えー・・・寒いのに。」蘭はブツブツ言いながら部屋を出た。

外は寒く、上着が必要だった。

急いで上着を着て、外に出ると背中になにか当たった。
雪玉だ。

「ビンゴ」新一が笑った。

「冷たいじゃない！仕返しよ！！」

蘭は新一の顔めがけて、雪玉をおもいつきり投げた。

「よっ」ひょいと新一はかわす。

「俺に捕まえられたら負け」

「なによ、いきなり・・・」蘭があきれた顔で言った。

「ほら、早く逃げたほうがいいぜ。ハンディつけてやるからよ」

「ったく。考えることが幼稚なんだから・・・」

蘭が走り出した。

「10数えたら行くぞ」新一も数え始める。

「123・・・」

「10！」新一が蘭を追いかけてきた。

新一はどんどん近づいてくる。

「つかまえた」新一が蘭を抱き寄せた。

「これがやりたかったの？推理オタクのくせに・・・」

顔が赤くなりながらも蘭は言った。

「バーロー、んなワケねえだろ」新一は蘭を見た。

「でもチヨコありがとな。明日すぐ帰るから」

蘭はクスッと笑って新一にかかるくキスをした。

もう一度、新一からキス。

道の真ん中で2人は熱いキスをかわした。

とけることのない、あたたかい雪の華となって・・・。

（後書き）

作者より

こんにちは！ひろせあき広瀬亜紀といいます！これから一生懸命、頑張るので
よろしく願います！あつあと！もしよければこの小説の感想な
どいただけたら嬉しいです！感想まってます！ではいきなりですが、
さようなら♪

♪おしゃべりの時間♪

新一：来年のバレンタインもチョコくれる？

蘭：さあね！

亜紀：新一どんまい！！（笑）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0212a/>

雪の華～2004～

2010年10月22日00時37分発行